

(仮称) 石狩・八幡小学校設立準備委員会 第7回会議【質疑要旨】

- ・日時 平成30年 7月12日(木) 18:30～20:05
- ・会場 八幡コミュニティセンター 会議室

・出席者

〔保護者〕

柿崎 明子 八幡小学校PTA副会長
 鈴木 諭美江 聚富小中学校PTA監査
 富木 智之 石狩中学校PTA会長
 熊倉 可菜 くるみ保育園父母の会
 工藤 隆司 聚富保育園 父母の会

〔学校関係者〕

吉田 光岐 石狩小学校校長
 三島 哲 八幡小学校校長
 青山 司 聚富小中学校校長
 本田 明美 石狩中学校校長〔副委員長〕

〔学識経験者〕

戒屋 健一 学校支援地域本部事業・地域コーディネーター〔委員長〕

〔学校支援推進員〕

中井 元 石狩小学校学校支援推進員
 菊地 功 八幡小学校学校支援推進員

〔町内会代表者〕

牧野 勉 むつみ町内会会長
 朝倉 勲 虹が原町内会会長

※出席 14 名

欠席 1 名 (佐藤百恵委員・石狩小学校PTA副会長)

〔教育委員会事務局〕

佐々木生涯学習部長
 佐藤教育指導担当次長
 安崎総務企画課長
 佐々木学校教育課長
 照山指導担当参事
 清水市民図書館副館長
 松永総務企画課主幹
 古屋総務企画課主査
 加藤総務企画課施設担当主査
 石黒学校教育主事

※傍聴者 3 名

● 委員長あいさつ

前回会議では学校施設の改修を議題として、現地視察を行った後、委員の皆さんから多くのご意見、ご要望等をいただいた。私は、まず外観を整備すべきと思っていたが、委員の一人から子ども達の安全を第一に考えて改修を進めるべきである旨の意見が出され、安全こそが大事であるという原点を教えていただいたように感じた。委員の皆さんに支えられながら、この会議を進められていることに感謝を申し上げたい。

今日の会議では、校名（案）を決めるという、設立準備委員会としてもかなり大詰めのところに来ていると思っている。どうか忌憚の無いご意見をいただいて、校名の協議がまとめられるよう宜しくお願いしたい。

● 前回会議（第6回）の質疑要旨について（事務局・松永総務企画課主幹より説明）

事前に送付していた内容について、訂正箇所等が無い旨、各委員からの了承を確認した。

● 校名募集の結果報告及び校名案の協議について

・事務局（松永総務企画課主幹）より、別添「石狩小と八幡小の統合小学校 校名募集 集計一覧」について報告、説明した。

・事務局として、No.38、43、44、47、54、70の6案について、理由が不明のため校名案として不適當であると判断する旨を説明し、了承を得た。その他の質問は無し。

【質疑応答】

（戒屋委員長）

各委員から、意見や感想などについて述べていただきたいので願います。

（A委員）

応募一覧の中で「石狩八幡小学校」が一番適していると感じた。石狩小と八幡小のどちらかとするよりも、統合（合併）して一つの小学校になるという感じがしたので、No.29～36の8名から応募のあった「石狩八幡小学校」がいいと思う。

（B委員）

幅広い年代の方から応募していただき、小学生も熱心に考えてくれたことがわかり、とても嬉しく思った。

（C委員）

「石狩小学校」が19名の最多応募で、その内14名が50歳以上からの応募という結果を見て、年配の方が石狩小学校という校名に愛着を持っているとあらためて感じた。

（D委員）

「石狩小学校」という校名に多くの方が応募された結果については、石狩小学校同窓会からの要望書が提出されたという報告を受けていたので、予想どおりだと感じた。今回は学校統合という機会

募集したわけで、石狩小か八幡小のどちらかの名前に片寄って決めてしまうのはどうなのかと思いながら、理由や想いも読ませていただいて、できれば新しく違う名前の方がいいと思った。

(E委員)

現在の漢字表記の「石狩小学校」と「八幡小学校」は対象外とするべきだと思う。個人的な話になるが、自分の子どもが八幡小に通学していて、父は旧若生小、自分は旧石狩東小の卒業生である。八幡小も30年の歴史があるが、元々の石狩小がこれまでの歴史の中で分散と統合を繰り返して、今回また一つになるということで、「石狩小学校」のままで良いと思った時期もあった。しかし、その考えを子どもに伝えたところ、相当悲しい顔になり嫌だと言われ、その理由を聞いたところ「学校を取られる気がする」ということで、やはりそのように思うのだと感じた。2校にはそれぞれ卒業生がいて、今通っている子ども達もいて、どちらか一方の校名にするべきではないと思ったところである。このように家族で話し合ったとき、自分の子どもは石狩小が無くなって八幡小に吸収されるという考え方だったので、そうではなく2校がそれぞれ閉校して、校舎は八幡小を使うが、学校としては新しく生まれ変わることを説明し、理解してくれて自分で考えた校名を応募したようである。そのようなこともあり、どちらか一方の校名にするのは避けるべきであると思った。私からの提案としては、前回会議で議論になっていた「子ども達の投票」は、2校の児童数に違いもあるので、この校名一覧の中から3案位を抽出した上で、各学年で1案を選ぶというやり方がいいのではないかなと思う。

(F委員)

だいたい予想通りの結果だったと思っている。応募数の少ない校名でも良い名前もあると思ったので、最初から除外せずに議論した上で決められれば良いと思う。

(G委員)

幅広い年齢層からの応募があった中で、単純に考えると19名の応募があった「石狩小学校」になるが、無難におさまる校名としては「石狩八幡小学校」ではないかという感じがしている。

(H委員)

「石狩小学校」の応募が一番多いという結果は、歴史が違うし当然かなと思っており、「八幡小学校」や「石狩八幡小学校」の応募は、古くから愛着を持っているというよりも、石狩小との歴史の違いが表れていると感じた。個人的な意見としては、これから校章や校歌を決めていくことを考えると、無難なのは「石狩八幡小学校」ではないかなと思うが、ひらがな・カタカナ表記の2名を加えて計22名から「石狩(いしかり・イシカリ)小学校」の応募があったことは無視できず、考慮はしなくてはいけないと思っている。

(I委員)

年齢の高い方が現状から変えられない考え方をしているということと、子ども達の自由な発想や考え方に驚かされたところで、自分も含めて反省になるが、もう少し自由な発想を持つべきだったのかなと思った。

(J委員)

歴史と伝統に重点を置いて考えられた方と、2つの学校が一つになって新しい学校が始まることを意識している方、そして未来に向かって新しい感覚で応募された方、それぞれが様々な観点で応募されたことがわかり、良い取組になったというふう感じた。

(K委員)

子ども達の応募を見ると、2校の校名を組み合わせた名前が多く、少々子どもっぽいかなと感じる一方で、現在通っている石狩小と八幡小に愛着を持って大切にしているという想いが伝わってきた。さらには同じ子どもであっても、石狩、八幡にこだわらないで、新しい名前を考えている子どももいるということで、この地域の長い歴史と、未来を見据えているというところも、子ども達の思いがあるのかなと思った。そのようなことを加味しながら新しい名前を決めるのは難しいと感じた。

(L委員)

私としては「石狩小学校」という校名を大事にしていることが伝わってきて、大変嬉しく思っている。子ども達の発想と地域の方の思いなどを受け止めさせていただき、また「はまなす小学校」などといった全く新しい名前があって、自然のことや未来のことなど、いろいろな発想や要素をいただけたと思っている。

(M委員)

石狩小学校という歴史の重みについては、以前から話されていたが、やはり感じる場所があった。「どこに重きを置くか」ということがポイントであると思いつつながら、校名を決めるのは難しいと思ったのが率直な感想である。個人的な意見としては、「はまなす小学校」が非常に柔らかさと石狩らしさが感じられる名前であると思った。

(戎屋委員長)

委員の一人として申し上げさせていただくと、私としては予想以上に応募があったと感じている。校名を募集することについて、以前はしっかりしない気持ちがあったが、これだけ関心を持ってくださったということに本当に嬉しく思った。募集した結果を受けて、民主的に決めるとすれば結論的にははっきり見えてくるものと思っている。私は石狩小が145年の歴史を刻んでいて、今回統合することでその歴史を一度切つてよいのかどうかということが、私達が考えなければならない課題だと思っている。また、子ども達はきっと新しい校名がよいと思うかもしれないが、そうではなく大人の立場で子どもに伝えていくということも大事ではないかと思った。今回の結果を見ると、かなりの差がついた結果になっているので、私は結果を重んじるべきではないかと思っている。

今、全員から発言していただいたが、さらに付け加えたご意見等をいただきたい。

(E委員)

先ほど申し上げた内容と重なるが、個人的には、ひらがなの「いしかり」、カタカナの「イシカリ」、石狩川、石狩中央、石狩八幡、ハマナスなどが望ましいと思う。そのまま石狩小学校、そのまま八幡小学校とする選択肢はないのではないかと強く思う。

現在の小学4年生にしてみると、平成31年度の閉校直前の一年を含めた5年間をそれぞれの学校で生活して、卒業前の小学6年生の1年間だけ違う名前の小学校に通学することになることを考えると、どちらかの名前の学校になるというのは違和感があると思う。それぞれの学校が一度無くなって、新しい小学校でみんなで仲良くしていこう、ということ子どもには伝えていきたい。

(戎屋委員長)

子ども達に応募してもらったのは確かだが、私は子ども達の気持ちだけに沿って、この問題を考えることには疑問を持っていて、たかだか小学校の6年という期間を過ごす子ども達が、良い、悪い、好き、嫌いといったような気持ちだけで決めてしまうものではないと思う。

(E委員)

「石狩小学校」の応募は、組織票ではないのか。どうしても自分の学校を残したいという気持ちはあるだろうが、それは単純にエゴとしか思えない。

(I委員)

私は自分が子どものときに、学校の統合を経験した。自分が通っていた学校の方が小さかったので、吸収統合のような形で相手の学校の名前を名乗ることになったのだが、どのように納得したかという点、地域の名前だったからということだった。ここも同じ状況で、地域の名前として「石狩」がつくのはしょうがないのかなと考える。約50年前の当時は、自分達の意見を言う機会も、このような委員会も無かったが、今はこのような機会が与えられている中でどういう形、結果になったとしても、どこかに傷みは残るので、全ての人が納得できることは難しいと思っている。

(E委員)

地域というのであれば、「八幡」になるのではないのか。

(I委員)

この地域だけではなく、聚富もあるし、広く捉えれば石狩の中なので無難な選択ということになるのではないか。

(D委員)

八幡小学校自体も既に統合校である。主人の母が旧美登位小学校の出身だが、「八幡小が合併(統合)する」と伝え、「じゃ新しい名前になるの」と聞かれた。自分の経験から新しい学校になるなら、学校の名前が変わるのは当然という発想なのだろうと思う。自分の息子に「学校の名前が変わるけどどうするの」と聞いたら、「自分は八幡小学校に通っているから八幡小学校がいいし、保育園のときの友だちは石狩小学校に通っているから石狩小学校がいいと言っていて、どちらかを選ぶことはできない。」と言っていた。

公募ということで、子どもや地域の方の意見をこのように聞かせていただいたので、この中から委員でしっかり選抜することが大切だと考える。先ほど「エゴ」といった重たい言葉、意見があったが、自分の学校に思い入れがあるのは当然で、多少偏るのは仕方ない。それがはじめから絶対にダメだということではなく、除外しようというのではなしに、委員長が話されたように歴史も思いも加味した上で、選抜していくのがいいと思う。私は、先ほど「どちらかの名前に偏るのではなく」とお話しさせていただいたが、そのまま「石狩八幡小学校」とどちらの名前も変えずにくっつけば、きっと誰も文句は言わないで自然な流れになるのではないかと思う。逆に全く関係のない名前にしてしまえば、納得されるという考えがあるかもしれないが、応募した方の思いを受け取って考えるということを大切に考えるべきだと思う。

(E委員)

どうしても石狩小学校という名前にしたいのであれば、ひらがな表記か、カタカナ表記に変えて、後は他の案との間で民主的に決めるのがいいのではないかと思う。

(D委員)

それは多数票だけで決めるなら石狩小学校になるが、多数票で決めようということではないですね。

(E委員)

石狩小の同窓会から要望があったということなので、こういう結果になることは予想できたので、先ほど組織票と申し上げた。みんなで話し合っただけで応募しようということになったかどうかはわからないが、このような結果になるのは当然だと思う。

(戒屋委員長)

そのあたりの実状はわからない。

(G委員)

石狩八幡小学校に応募された方は、8歳、9歳、9歳、11歳、11歳とあるように、若い人達からの意見が多くて、一番ふさわしいのは石狩八幡だと思う。

(E委員)

私も一番納得すると思うし、一番後腐れがないと思う。

(D委員)

後腐れだけで考えるのではなく、ここに述べられている思いをしっかりと読み込みたいと思う。「石狩と八幡を合わせた」「石狩も使いたいし、八幡も使いたいから」「石狩小の子どもと八幡小の子どもが仲良くなってほしいから」という理由のどれを見ても、基本的に二つが一つに合わさったということに尽きる。悪い方に進むのではなく、よい方に進む意味で合わさる、希望を込めて合わせた、という気持ちが詰まっていると思う。簡単な言葉での説明だが、仲良くなってほしいからという気持ちは私も同じだし、せっかく合併（統合）するのであれば、大人数でみんなで仲良く楽しく、今まで少人数でやっていたこともたくさん的人数でやっていければ楽しみだろうと思う。ここに述べられている思いは、すごく素直に表現されていると思っている。

(I委員)

52歳の方が述べられている「旧石小、八幡小の強い思いを残したい」も合わせて、これが一番ふさわしいと思う。

(D委員)

ここにいる委員の皆さんに、まず一票を投じるようにしてはいかがか。

(戒屋委員長)

その前に、もう少し皆さんの意見を聞かせてもらったり、議論をしたいと思う。この設立準備委員会の中で、石狩小学校と八幡小学校の綱引きになっては決まらないし、決まったとしても何らかのしこりが残るのではないかと考える。他の委員さんの意見を聞かせていただきたい。

(H委員)

現役の子ども達は、歴史ということはそんなに頭にないと思う。古い、古くない、という水かけ論をやってもしょうがないので、通っている子ども達の和（輪）を大切にして、歴史は大事だが、あまり歴史を大事にしすぎるのもどうか。また、これから校歌や校章を作ると考えると、全く違う校名にすることには疑問を感じる。

(E委員)

「石狩川小学校」は、校歌が作りやすいのではないかな。

(D委員)

そういうことも加味した方がいいと思う。また、校名がカタカナの小学校というのはあるのか。ひらがな標記の学校も、特別支援などの学校以外ではあまり見たことがないような気がする。一般的な感覚として、書類に字を起こしたときに「校名が、カタカナ、ひらがなではいかがか。」という気持ちはある。

(事務局・松永総務企画課主幹)

道内で昨年、義務教育学校として開校した知床ウトロ学校は、ウトロという地名を使っている。同じく占冠村の義務教育学校もトママという地名を使っている。地名がカタカナ表記の場合に、学校名にもその地名を使うという事例が見受けられている。

(A委員)

52番の「西蝦夷地石狩記念小学校」という長い名前は、子ども達にとっては長くて覚えづらいのではないかと感じる。37番の「石狩・八幡総合小学校」も言いにくいと思う。子ども達の立場から考えると、言いやすい、覚えやすい学校名がいいと思う。

(戒屋委員長)

先ほど各学校の歴史が話題になっていたが、今年3月に決定、承認された（「(仮称)石狩・八幡小学校基本計画」）には、明治6年に石狩教育所ができ、明治12年に石狩小学校になり、明治19年に若生分校に分かれ、石狩東小、八幡小へと変遷している。今回、石狩小学校という校名になるとした場合は、かつて分校として始まった学校が本校に戻るということを意味する。このようなことは千歳市の学校でも分校が統合されて本校に戻るという事例があるので、事例としては珍しいことではないと思う。

(E委員)

そのようなことを私の子どもに話したら、嫌がられたので。

(戒屋委員長)

子どもの考えにこだわりすぎず、大人がしっかり考えるべきだと思う。子ども達は当初、6年間同じ校名で生活するはずであったのが、今回統合することになって校名の問題を考えることになり、多少の苦渋をなめさせるかもしれないが、もっと長い目で校名を引き継いでいくために、子ども達ではなく、この設立準備委員会の中で考えるべきだと思う。あまり子ども達の心情にとらわれると、正しく見なくてはならないものが見えなくなってしまうのではないかなと思う。

(E委員)

それなら最初から募集しなければよかったのではないかな。

(戒屋委員長)

私は元々そういう立場だったが、委員の皆さんの意見で校名を募集することになったと認識している。

(E委員)

八幡小だって30年の歴史があるが、それは全く無視するということか。

(戎屋委員長)

無視という言葉は適切ではないかもしれないが、それを包括する歴史があると考えている。

(E委員)

もし、石狩小学校という校名になるなら、場所が変わるだけで、石狩小学校の歴史としてそのまま続いていくことになるのか。

(戎屋委員長)

仮に、新たにスタートするという意味での初年度になっても、そういう流れの中にあるという理解が必要になると思う。

(E委員)

1年目になるなら、名前は変えたほうがいいと思う。

(D委員)

大事なことは、二つの学校が一緒になり、一つの校舎で子ども達が学ぶということ。ゼロではなく、どちらの学校からも歴史を持ってきて引き継ぐということは当たり前のことで、そういう考え方を持つべきだ。

(E委員)

心機一転でいきたいのであれば、ひらがなやカタカナ表記にするか、石狩八幡にすべきと考える。そのまま石狩小学校でいくなら、これまでの話し合いそのものが無意味になると思う。

(D委員)

意味がないということはない。皆さんから募集して意見をいただいたことに意味がある。これだけの応募が集まったのだから大切にしたい。石狩小学校という意見が多かったのは事実なので、その思いを委員が受け取ることが大切。全面的に反映しなければならないわけでもなく、これを除外しなくてはならないわけでもない。仮に石狩小学校になったとしても、ここに石狩小学校の歴史を全面的に持ってこなければならないわけではない。仮に石狩小学校か八幡小学校になったとしても、主導がどちらかの学校になる訳ではないと思う。既にここには子どもの意見が反映されているので、それも受け止めて、決めていけばいいのではないかな。

(G委員)

結論的にどうなるのか。先ほどから堂々巡りが続いているが、石狩小学校がいいのか、石狩八幡小学校がいいのか、委員の中で決めたらいいのではないかな。そうしないと時間ばかりが経過してしまう。

(E委員)

いくつか選んだ上で、投票等で民主的に選んだらいいのではないかな。

(G委員)

その方がいいと思う。

(D委員)

石狩小学校と石狩八幡小学校という二つの強い意見が続いているが、ここで委員が望ましいという名前をまず一票挙げてもらってはどうか。そこから選抜してはどうか。

(戒屋委員長)

市内の皆さんに募集をかけて、いろいろな校名が出ている中なので、このように決めたという説明ができる理由が必要だと思う、

(H委員)

校名は、9月の市議会での承認を経て決まるという説明だったので、次回の会議に決めるというような余裕はなく、そろそろ結論を出すべきではないか。

(投票の具体的方法が議論される。)

(候補を3つに絞るか。石狩小と石狩八幡小と、3つめの候補をどうするか。)

(自分がこれぞいいと思うものを一つ選んで決めればいい。 など)

(戒屋委員長)

これだけの応募をいただいているので、そのことを踏まえて決めていかなくてはならない。候補として、「石狩」と「石狩八幡」の二つに絞って決めてはいかかがか。

(G委員)

大義名分がたつのは、応募数が多かったこの二つから選ぶということだと思うので賛成する。

(I委員)

石狩小学校の応募が一番多かったことは、たまたまではなく事実であり、応募された方の民意であるということを理解するべきで、あながち軽視はできないと思う。また、それ以外のこれまで出された意見も理解できる。このことを基に、私達で決められればいいだけのことだと思う。

(戒屋委員長)

それでは、二つの校名案から各委員に判断していただくということでいいか。これまで時間をかけて話し合ったので、その結果で決定することにしたい。

(賛成多数)

(2校から選択し、用紙に記入、無記名)

投票結果 (事務局：佐々木生涯学習部長より報告)

石狩小学校 3票

石狩八幡小学校 8票

(戎屋委員長)

どこかでこういう結論を出さなければならなかった。

校名は、設立準備委員会において、校名案としてこのように決めたということで、教育委員会会議が開かれて審議されることになるが、ここで最終決定したわけではないので、お含みをいただきたい。

設立準備委員会の意向としては、票は分かれたが、石狩が3票、石狩八幡が8票という結果であったということと、全体の募集結果も合わせて教育委員会会議で審議していただくので、今回の結果をもって即決定ではないということを確認させていただく。

(全委員、了承)

● 施設整備に係る要望書について

(事務局・松永総務企画課主幹より、要望書(案)を説明した。)

(戎屋委員長)

ただ今の説明について、ご質問、ご意見があればお願いしたい。

(質問、意見なし)

(戎屋委員長)

要望書(案)のとおりとして願います。

● 次回会議について

(事務局・松永総務企画課主幹)

次の会議について、以前お示しした工程表では10月予定となっている。

次の検討議題としては、校章、学校の教育目標(案)について考えており、開催日時については、委員長と調整した後、各委員へご連絡する。

閉 会

会議録署名

上記会議の経過を記録し、その相違ないことを証するため、ここに署名します。

平成30年10月25日

(仮称) 石狩・八幡小学校設立準備委員会

委員長 戎 屋 健 一